



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_south/939/



エリア

高雄市

テーマ

民族

教育

体験学習

食文化

2 県産を
ゼロに



美濃客家庄教学農場

2000年代以降の農村を象徴する 観光農業施設

美濃客家庄教学農場は、高雄市長謝長廷(当時)の秘書をしていた美濃出身の陳文榮によって、1999年に創立された観光施設です。園内では農産加工作業、挿茶(ナッツや茶葉をすりつぶして作る北部客家の茶)作り、農作業などの体験ができ、学校や企業などを単位とする団体での観光も受け入れています。

学 び の ポ イ ン ト

1.

2000年前後から急速に進む台湾のルーラルツーリズム

台湾は2002年にWTO(世界貿易機関)に加盟しましたが、それに先立ち1988年に果樹が、1998年に野菜がコメの生産額を抜き、農業の商品作物化が進むとともに農産物の付加価値を重視する時代へと移行していきました。すなわち量より質、意味づけ(体験)に価値がつく時代になったのです。農業体験を商品化する農業観光が始まったのは日本より10年ほど遅い時期でしたが急激に広がり、今では農業の主要な収入の一つとなっています。

美濃の客家文化と農業関連の商品(農産物、農業体験など)を結びつける動きは2000年前後に企業や個人商店から始まり、2005年ごろから農会(農業団体。日本の農業協同組合に当たる)がこの動きに乗って大根、小豆、枝豆などの収穫体験を始めました。

2.

地域の枠組み再編とルーラルツーリズム

1990年代の美濃はダム建設反対運動が目される中、周囲と隔離した客家文化の箱庭として台湾全土にその名声を広めました。しかし1999年に高雄一旗山(美濃の隣町)を結ぶ全長33キロの10号高速道路が開通し、美濃は高雄からの日帰り旅行圏内に組み込まれました。さらに2002年には美濃とその北側に位置する杉林郷(現・杉林区)を結ぶ月光山トンネルが開通し、美濃は高雄県(現・高雄市)中山間地域への玄関ともなりました。これらの政策によって美濃は閉じた村から高雄市民にとってアクセスのよい観光地へと変貌しました。このような交通の変化にともなう地域の枠組み再編も、農業体験などを中心とする観光に大きく影響しています。